

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取西部） 1 1 月号

1. 地元の食を学ぶ 根雨小学校

日野町立根雨小学校は10月上旬、総合的な学習の時間の一環で「食について考えよう」をテーマに、J A 鳥取西部農産物加工所「大夢多夢（たむたむ）」を見学し、もち米「鈴原糯（すずはらもち）」で作る丸餅や切り餅の作業工程を学んだ。

加工所を見学した児童は、施設名の由来や、やりがいを感じるのはどんなときかなどを質問していた。



2. 米フェスタ米を伯耆町に寄贈。学校給食に提供

J A 鳥取西部や新日本海新聞社などで構成する米フェスタ実行委員会は10月18日、伯耆町役場溝口分庁舎で米フェスタふれあい交流田米の贈呈式を行った。

交流田で収穫したコシヒカリ玄米約100キロの目録を、J A 鳥取西部の植田専務が教育長に手渡した。米は11月16日、同町の小中学校などの学校給食に使われた。



3. 甘藷出荷打ち合わせ会

J A 鳥取西部甘藷部会は10月18日、令和3年産甘藷出荷打ち合わせ会を開いた。全国的に被害が拡大し、10月初旬に管内でも発生が確認された「サツマイモ基腐病」の情報を共有。対処方法や早期発見に向けた注意を喚起した。

目合わせでは、8月から出荷している「金時」と今後出荷を予定している「べにはるか」の出荷規格など、品種ごとに等級分けされた見本を見比べ、大きさや形状など出荷規格や箱詰めの注意点を確認した。



4. 児童が種まきから収穫まで体験

米子市立淀江小学校は10月26日、学校に隣接する田んぼ約10アールに黄金色に実った稲の収穫体験を行った。

収穫した稲は、児童が地元生産者やJA鳥取西部女性会淀江支部の会員、JA職員らの協力のもと、5月に苗箱に種まきをし、田んぼに手植えをしたもので、農作業の大変さを実感しながら収穫の喜びを体験した。



以上